

ごん吉くんしポート〜南吉よもやま話〜

第11回 南吉と戦争②

終戦70周年を記念し、南吉と戦争の関わりについて紹介する第2回目。今回は、南吉の反戦的な考えがよく現れた童話「ひろったラッパ」をご紹介します。

「ひろったラッパ」は、軍隊のラッパ手になって手柄を立てようとしていた男が、戦争で畑を荒らされ、打ちひしがれる村人たちを見て考えを変え、ラッパを吹くことで人々を励まし、平和で豊かな村を取り戻す、という物語です。有名な「でんでんむしのかなしみ」と同じ昭和10年5月に書かれました。

当時、南吉は東京外国語学校の4年生として、皇居のすぐそばの校舎で英文学を学んでいました。入学した翌月の昭和7年5月には、犬飼首相が暗殺される5・15事件が起き、翌年には、プロレタリア作家の小林多喜二が警察署で拷問の末に獄中死するというニュースも聞いています。さらに「ひろったラッパ」を書いた9か月後には、青年将校らがクーデターを企てた2・26事件も起きています。軍部によるファシズムが台頭し、自由な言論が圧迫されるなかで、「ひろったラッパ」は書かれたのです。

物語の中で主人公がなろうとしたラッパ手は、軍隊にあつて、「突撃」「止まれ」など指揮官の指示を伝えるいわば花形でした。さらに、日清戦争で敵弾にたおれた後も口からラッパを離

「ひろったラッパ」と軍国美談

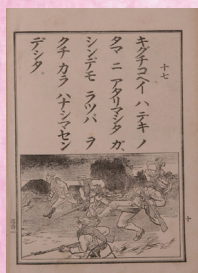
7月18日から南吉記念館で、特別展「ひろったラッパはどうなった？」戦争の時代を生きた童話作家〜が始まるよ。



さなかつたというラッパ手、木口小平二等卒の逸話が修身(道徳)の教科書に採用されたこともあり、ラッパ手は少年たちの憧れでした。

木口小平のような話は、軍国美談と呼ばれました。「正坊とクロ」(昭和6年発表)でサーカスのクマが芸をする際にラッパで吹かれる「勇敢なる水兵」は、日清戦争の海戦で重傷を負った水兵が、敵艦はまだ沈みませんかと尋ねて亡くなったという逸話を元にした軍歌ですし、昭和7年の第一次上海事変で敵の鉄条網を破壊するために爆弾を持って突入し爆死した3名の工兵は「肉弾三勇士」として、政府やマスコミによつて盛んに喧伝されました。

「ひろったラッパ」には、そうした国民や子どもたちへのプロパガンダに対する批判も込められているといつていいでしょう。



戦前の修身の教科書

まちがどVoice

Q

息子がスマートフォンを触っていて、誤ってアダルトサイトにアクセスしてしまいました。登録料金として98,000円を請求されていますが、支払うべきでしょうか？

A

支払う必要はありません。インターネット契約では、金額の確認ボタンを押した時点で契約が成立します。アクセスしたり、年齢確認ボタンを押しただけでは契約は成立しません。また、焦って運営サイトに連絡すること、個人情報漏らすことになります。請求メールは無視しましょう。

なお、半田市消費生活相談室では、その他にも投資詐欺などの悪徳商法やクーリングオフ、食品表示など消費生活に関する様々な相談を受け付けています。困ったときは、すぐに相談しましょう。

【開設日時】 毎週月・火・金曜日 10時～16時
【開設場所】 市民交流センター内(クラシティ半田3階)
【電話相談】 半田市消費生活相談室 ☎32-2444

